

しゃがむ土偶 辞典

かみ おか い せき ど ぐう
上岡遺跡のしゃがむ土偶



福島市 文化振興課
令和3年3月発行

こんにちは!

しゃがむ土偶 です。

横から見ると
お腹が膨らんでる!

大きな乳房があり、お腹が膨らんで
いることから妊婦を表している!?

お面を
かぶっている?
実は耳飾りも…

ストレッチを
している!?

膝を曲げてしゃがんで、
右腕を左の腕で抱え込ん
でいる。まるでストレッチ
をしているよう?

素敵な模様
があるよ!

まるで洋服を着て
いるかのよう?

わたしのプロフィール

見つけた
ところ **上岡遺跡**

生まれ **縄文時代後期(約3,500年前)**

高さ **21.3cm** 重さ **1.7kg** 属類 **重要文化財**

わたしは
約3,500才!



謎

この土偶のポーズが何を表現して
いるのか正しい答えはまだありません!

有力な説は2つ!!

1 縄文時代のお産(座産)のポーズという説

2 祭祀(まつり)の場面の祈りのポーズという説

「大型で、姿勢や動作が具体的に表現され、細部まで細かい作り込み
であり、縄文時代の文化や習俗を考える上で極めて貴重」という高い
評価を受け、土偶単体として重要文化財に指定されました。県内では
唯一の逸品です。

“ほんもの”に
会えるのはココ!!

じょ-もぴあ宮畑

縄文時代を身近に感じられるゆーとぴあ!

じょ-もぴあ宮畑は、今から約4,500~2,500年前の縄文時代の宮畑
遺跡を整備した公園です。直径90cmの柱を使った巨大な掘立柱建物
や壘穴住居が復元され、縄文をテーマにした体験や見学ができます。



オリジナルの土偶や
勾玉が作れる!



MAP



【開園時間】9:00~17:00
【駐車場台数】140台
【定休日】

- 体験学習施設・露出展示棟:年未年始・火曜日
(火曜日が休日の場合は、翌日以降の休日にあたらない日)
- ※福島市立学校の春・夏・冬季休業中は毎日開館
- 休憩棟・炊事棟:年未年始(12月29日~1月3日)
- 公園区域・駐車場・休憩棟内トイレ:定休日なし



詳しくは
こちら▶



わたくしは
ココで
見つけました

しゃがむ土偶の 発見!

上岡遺跡
(飯坂町東湯野)



ココ!!

福島市

土偶出土地点

昭和27年
調査地点

昭和56年
調査地点

道路

神社

発掘当時 (昭和56年)



水場遺構

調査区全景

現在



上岡遺跡



昭和27年に小原元七氏・恒七氏兄弟が果樹園の排水溝を掘っていると、竪穴住居の炉跡や縄文土器とともに「しゃがむ土偶」(平成23年に重要文化財に指定)を発見しました。当時の発掘調査は全国的にも例が少なく非常に画期的なものでした。また、昭和56年の調査では全国でも珍しい水場遺構が見つかりました。

「しゃがむ土偶」は一部欠けた状態で見つかりました。くすん…
その後の調査で残りの部分も探しましたが、
残念ながら発見できませんでした…



わたしの
ふるさと
故郷

上岡遺跡とは?

縄文時代後期(約4,000年前~3,000年前)と晩期(3,000年前~2,300年前)の2時期にわたる縄文時代の集落であることが判明!

縄文時代の人も
オシャレをしていた!

朱漆塗りの縄文時代晩期の土器片と耳飾り



※じよーもびあ宮体験学習施設「じよいもん」で展示中

縄文土器や石器だけでなく、土偶や朱漆塗りの土器などハレの日(まつり)に使用された道具、北東北の文様のついた土器や遮光器土偶も見つかっています。上岡縄文人はとても優れた精神文化と土木技術を持っていたことがわかります。南方(房総半島以南)に生息する巻貝である「イモガイ」の殻を輪切りにした形の石製品が出土していて、遠くの村との交流・交易も行われていたことがわかります。

出土した縄文時代晩期の土器



どんな風に使っていたのかな?

イモガイ形石製品の出土状況



ちか海が近くにないのに貝の形を知っている!

このように、上岡遺跡は福島市の縄文社会を考える上で非常に重要な遺跡であり、未来に残すべき大切な宝です。



知ってる？ 土偶とは？

土偶は、土をこねて作った人型で、女性を表現しています。縄文時代草創期（約15,000～10,000年前）に出現し、晩期（約3,000～2,300年前）まで長い間作られ続けました。出現期の土偶には顔や手足がありませんが、時期がたつにつれ、「顔のある土偶⇒自立する土偶⇒ポーズをとる土偶」へと進化していきます。



どんな思いが込められているのかな？ 土偶のやくわり

土偶は、祈りの道具として使われており、安産・子孫繁栄など社会をつなぐ大事な願いが込められていました。縄文時代の人々は、土偶に様々な特別な願いを込めてお祈りをしていたと言われています。
土偶は、縄文人の心であり、縄文の文化なのです。

- ① “壊れた状態”で見つかるものが多い ▶ 祭祀(まつり)で破壊して災厄等を祓うためという説
- ② 特に“女性”を表現しているものが多い ▶ 多産・安産などを祈ったという説

土偶の大きさにも意味があった？
土偶のサイズは大・中・小があり、大きいものは「村」全体が集まって行う「まつり」に、中程度のは家族や個人での「まつり」に、小さなものは各個人での「まつり」にと、それぞれの用途で大きさが決まっていたのではないかと考えられています。



しゃがむ土偶は「大きな土偶」にあたり、村単位のまつりごとに使用されていたと考えられます。村の象徴として大切にされていたのでしょう！



わたしの仲間たち 全国のしゃがむ土偶

上岡遺跡の土偶と似た、しゃがんで腕を組んでいる土偶は全国各地で発見されています。縄文人達はなぜ同じポーズをしたこのような土偶を作ったのでしょうか。

- 1 上岡遺跡 (福島県福島市)
- 2 風張1遺跡 (青森県八戸市)
- 3 荒谷遺跡 (青森県八戸市)
- 4 野面平遺跡 (青森県田子町)
- 5 立石遺跡 (岩手県花巻市)
- 6 夫婦石袖高野遺跡 (岩手県遠野市)
- 7 宝ヶ峰遺跡 (宮城県石巻市)
- 8 藤岡神社遺跡 (栃木県栃木市)
- 9 宮田遺跡 (東京都八王子市)
- 10 下山遺跡 (島根県飯南町)

謎 なぜしゃがむ？

全国から見つかるしゃがむ土偶の姿勢は「産座」の姿勢とも「祈り」の姿勢とも言われており、真実はわかりません。その姿勢が分娩や胎児あるいは産後の姿勢とも解釈できることから、生と死のシンボルとも考えられています。

【写真提供】①小川忠博氏撮影 ②③八戸市教育委員会 ④弘前大学人文社会科学部北日本考古学センター ⑤花巻市総合文化財センター ⑥(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター ⑦石巻市教育委員会 ⑧栃木市教育委員会 ⑨国立歴史民俗博物館 ⑩島根県教育庁埋蔵文化財調査センター